

格差、障害、家族…描いた30作

9月3～6日 あいち国際女性映画祭

韓国の社会問題を題材にした「若者の光」の
一場面―あいち国際女性映画祭事務局提供



国内外で活躍する女性映画監督の作品などを紹介する「あいち国際女性映画祭2020」が、九月三～六日に名古屋市中区のウイールあいちなどで開かれる。日本初公開を含む計三十作品を上映する。換気など新型コロナウイルス対策に力を入れるが、感染拡大などで状況が変われば開催の再検討をする。

主催するあいち男女共同参画財団などによると、日本初公開の「若者の光」は、韓国の若者たちが深刻な就職難や格差社会で抱える苦悩が題材。上映後にシン・スウォン監督がオンライントークイベントを開く。

中国・香港映画「花椒の味」も注目作品の一つ。香港を舞台に、女性が父の葬儀で初めて会った異母妹二

人とともに、父の残した火鍋店を経営していく話だ。

国内作品では、耳が聞こえない映画監督の今村彩子さんとアスペルガー症候群

の友人の関係を見つめた「友達やめた。」、重度障害者の家族や支援者の思いを追ったドキュメンタリー「普通に死ぬ～いのちの自立～」が上映される。

海外の監督や出演俳優らを招く例年のイベントは見送るが、国内の監督のトークイベントなどは開催。「杉原千畝生誕120年 命のヒザ発給80年」をテーマにシンポジウムも開く。会場のホールと大会議室

◇主な上映作品

【海外】

- ・若者の光(韓国、シン・スウォン監督)
- ・チャンシルさんには福が多いね(韓国、キム・チョヒ監督)
- ・ハラボジの家(韓国、ユン・ダンビ監督)
- ・花椒の味(中国・香港、ヘイワード・マック監督)
- ・大いなる餓え(台湾、シエ・ペイルー監督)
- ・ネヴィア(イタリア、ヌンツィア・テ・ステファノ監督)
- ・ラ・カチャダ(エルサルバドル、マレン・ビニャヨ監督)

【国内】

- ・友達やめた。(今村彩子監督)
- ・普通に死ぬ～いのちの自立～(貞末麻哉子監督)
- ・空中茶室を夢みた男(田中千世子監督)

では利用する客席を半数以下にする。名古屋・名駅前のミッドランドスクエアアシネマも会場になる。

チケットは、大人が前売り券千円、当日千二百円。学生と子どもはともに六百円。前売り券は九月二日まで販売する。問い合わせは、映画祭専用電話052(962)2520へ。(伊藤隆平)